大町地域づくり協議会　有志の会　議事録

開催日：令和7年8月8日（金）　19：００～20：45

場所：大町公民館　研修室１

出席者：坂東会長、西川副会長、高橋副会長、内田氏、前田氏、浮田氏、麻生氏

浜田館長、日浦支援員、福田

１　内容

（１）座談会振り返り（令和７年度総会時（R7.6.19））

　　資料に基づき説明を行った。

（２）今後の大町地域づくり協議会の進め方について

座談会やこれまでの座談会でよく挙げられるテーマについて、今後の大地域づくり協議会の進め方を検討するために意見交換を行った。令和7年9月上旬に全体会を行うこととなり、話し合いのテーマについては別途会長等が検討することとなった。テーマ別の内容は以下のとおり。

ア　連合自治会との関係性

・協力できる体制が関係性となることが望ましい。難しい部分があるかもしれないが、会長同士や役員同士、場合によっては水面下の場合もあるかもしれない。いろいろな方法でコミュニケーションを取り続けることが必要だと思う。

イ　話し合いタイミング

・地域づくり協議会の強みは様々な団体等が同じテーブルで話し合うことであることから、定期的に話し合いは持つべきだと思う。

・話し合いの場で共有しないと地域の課題にはならない。

・橘のTMHのような組織が必要だと思う。何はなくとも若手がどう考えているか話を聞いてみたい。

ウ　とうどまつり、梅まつり（梅林園整備）

・とうどまつりは、若手が多く参加するような形にしていきたい。若手を発掘し、数十名参加して欲しい。将来的にはとうどまつりの継続を目的とした組織を作るべきなのではないか。

・この協議会でとうどまつりと梅まつりを始めた際、団体の性格により2つの行事に割り振った。互いの行事には必要以上に関わらないという空気になったため、今後も実施するのなら共有しながら進めていける仕組みが必要。

・この地域づくりの取り組みは、櫻井先生に行事を実施する組織では無く、「課題解決型」の組織だと教わった。行事に対しては冷静な目で見る必要があるのではないか。

・本協議会のような地域自治組織は「課題解決型組織」であり、基本的には実働は好ましくないが、とうどまつりと梅まつり（梅林園整備）は現に大町地域づくり協議会の事業であるため、動かざるを得ない。ただし、動く時には人材の発掘を行うことが必須である。そうでなければ、自分たちが企画したものを自分たちでやっているということになる。そうなると継続性に疑問符が付くようになる。

・梅まつりをやってみよう、梅林園を整備しよう。ということでスタートしたが中途半端な形となっている。一度イベントまでやってみてはどうか。また、とうどまつりも西条で最も高いものを作るなど目標設定をして頑張ってみてはどうか。

・梅林園の整備も下草刈りをもっと継続的に頑張ってみてはどうか。実際に住民の方から感謝されたことがある。

・とうどまつりの当初の目的は、子ども達に伝統文化を伝えることだったと記憶している。このためPTAと連合自治会が中心で実施していた。丹原には物凄くキレイなとうどさんが多く、飯岡は物凄く大きなとうどさんを作成している。継続のためには物を作ることができる人が必要。

・とうどまつりは伝統文化を継続するということで、本協議会で実施しているという認識だと思うが、その実施目的は、「西条で一番のものを作る」と「子ども達に伝統文化を伝える」で取るべき方向性が異なるため、そこは一度みんなで話し合う、確認し合ってみてはどうか。

エ　文化祭、夏祭りの見直し

・若手から見直しの意見が出ている。主催は実行委員会だが、事実上、連合自治会の実施事業である。

・どこが主催であるかの問題もあるが、目的を整理してみると見えてくるものもあるのではないか。

（３）その他

・有志の会等の日程調整は、可能な限りPTA世代の若手が参加可能な日にすること。

・座談会の議事録等もHPで公開するべき。また記事も楽しさを感じることができるような内容にして欲しい。

・PTAが人権教育の講師に版画家の石村嘉成氏を招くことになっており、本協議会に謝金の支援の話があった。依頼ss額は約22万円中（旅費等込み）15万円だった。

・多額であるため、9月上旬の全大会で諮ることとなった。